# 奈文研ニュース

No.36 Mar.2010

NABUNKEN NEWS

NARA CULTURAL PROPERTIES RESEARCH INSTITUTE



独立行政法人　国立文化財機構
奈良文化財研究所
〒630-8577奈良市二条町2丁目9-1
http://www.nabunken.jp/


## 平城宮跡資料館の改修（その２）

平城宮跡資料館は、４月24日のリニューアルオープンに向け急ピッチで準備を進めているところです。資料館の大まかな展示内容は、奈文研ニュース2009年６月号でご紹介させていただきましたが、展示の検討が進み、さらに具体的になってきましたので、ここで再度ご案内いたします。

まずは、入口からロビーにお入りください。奈文研のロゴマークである隼人の盾が皆様をお出迎えします。インフォメーションルームに進むと、奈良時代や平城宮・京についての簡単な解説がされております。ここで予備知識を得ることができます。ガイダンスコーナーでは発掘調査の模型を展示し、研究所の調査風景を垣間みることができます。また復原された平城宮のすがたを、大型ディスプレイによる映像でご覧いただけます。年表では、平城京成立前から現代までを紹介しながら、宮跡の保存運動にもふれます。

次のコーナーに足を踏み入れると、そこはもう奈良時代。東の若草山と外京の街並みの向こうから覗く第一次大極殿院の模型を朝靄（もや）が包んでいます。歩みを進めると、官衙（かんが）（役所）コーナーへと続きます。宮内省の復原建物を参考に、連子窓に囲まれた建物内部には、机や棚、文書や文房具が配置され、当時の役人のオフィスを再現しています。続く宮殿コーナーでは、白木の柱に屏風、床には絨毯が敷かれ、宮殿の寝室・書斎・居間・食卓が再現されます。調度に正倉院宝物の復原品も置いています。

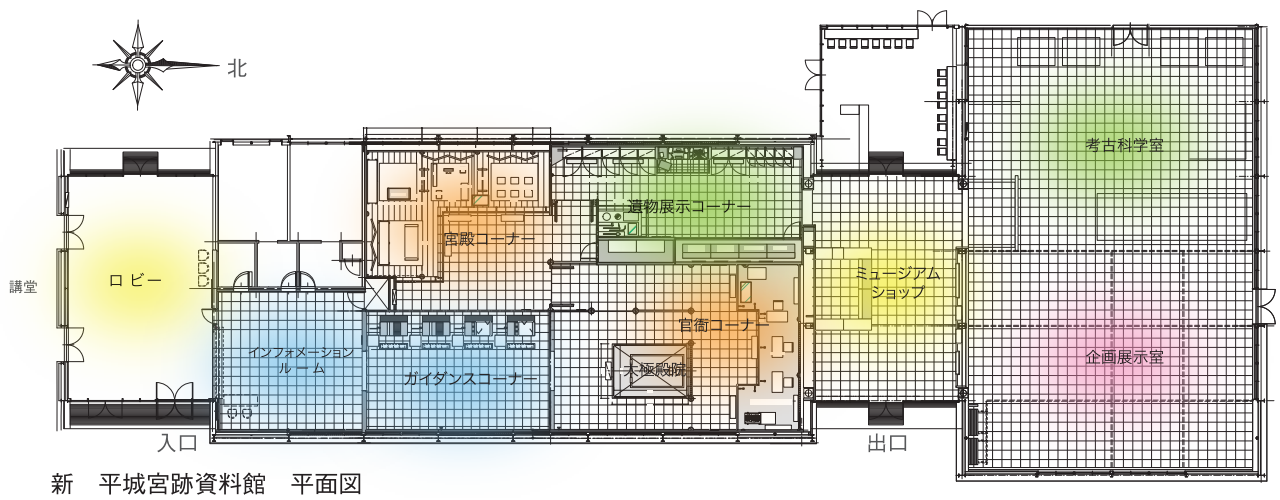
ジオラマを後にして次は遺物展示コーナーです。入って右手は出土品からわかる平城宮のすがたを、暮らし・税・まじない・国際交流といった切り口でご紹介します。向かい左手の研究室コーナーでは、木簡や土器・瓦などの遺物が各研究室でどのような視点で研究されているのかを解説しています。

ミュージアムショップを抜け、さらに奥に進むと、考古科学室です。保存科学の機器などを設置します。

そして最後のコーナー、企画展示室では来年度中に秋の大木簡展を含む３つの企画展を計画しております。

リニューアルオープン直前の４月22日には、関係者をご招待した内覧会をおこなう予定です。

現在、解説パネルの原稿作成も佳境に入っておりオープンに向かっての最終準備が整いつつあります。これまでご不便をおかけしてきましたがどうぞご期待ください。　　（企画調整部　渡邉 淳子）




新　平城宮跡資料館　平面図